

2025年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	講義概要
科学的 思考の 基礎	解剖学Ⅰ AnatomyⅠ	必修	講義	30	(1)	人体の各部形態、特に頭・頸部における局所の位置と形態について理解する。
	解剖学Ⅱ AnatomyⅡ	必修	講義	30	(1)	言語聴覚士が対象とする身体部位の形態と機能の詳細を理解する。
	解剖学Ⅲ AnatomyⅢ	必修	講義	30	(1)	言語聴覚士が対象とする身体部位の形態と機能の詳細を理解する。
	医学総論 Medicine	必修	講義	30	(1)	医学の基本的な知識を踏まえ、代表的な疾患とその概要を理解する。また保健医療に関する基礎知識を得る。
	基礎医学 Basal Medicine	必修	講義	30	(1)	病態を理解するうえで必要となる細胞・組織等の生理・病理の詳細を学ぶ。
	内科学 Internal Medicine	必修	講義	30	(1)	言語聴覚士にとって必要とされる疾患について基本的な知識や内科学的な観点を学ぶ。
	生理学 Physiology	必修	講義	30	(1)	人体の各器官における諸機能について学ぶ。主として植物機能と動物機能の一部について理解する。
	病理学 Pathology	必修	講義	15	(1)	病理を通じ、人体の様々な疾病の形態と機能の異常について理解する。
	小児科学 Pediatrics	必修	講義	30	(1)	正常児における精神的身体発達全般の基本的知識を中心に、言語聴覚療法に関する小児の諸問題を理解する。
	精神医学 Psychiatry	必修	講義	30	(1)	クライアントの心理的苦痛を理解するのに役立つ基本的な知識を、医学的観点から理解する。
人間の 生活	心理学 Psychology	必修	講義	15	(1)	認知、思考、行動などにおける心理の過程を知り、人の内面を見る手がかりとする。
	教育学 Pedagogy	必修	講義	15	(1)	人間の形成における教育の機能とその具体的方法について理解する。
社会の 理解	地域福祉論 Welfare Based on Community	必修	講義	30	(1)	地域を基盤にした福祉のあり方を理解する。
	障害者福祉論 Welfare for the Handicapped	必修	講義	30	(1)	障害者を対象とした福祉のあり方を理解する。

2025年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	講義概要
社会 の 理 解	関係法規 Related Regulations	必修	講義	30	(1)	医療法規概論、言語聴覚士法、関係法規、医療過誤などについて理解する。
	医学英語 Medical English	必修	講義	30	(1)	英語の専門用語を身につける。
基礎 分野	言語聴覚療法 Speech-Language-Hearing Therapy	必修	講義	60	(2)	言語、聴覚、摂食嚥下機能に障害を持つ方々を対象に機能面の改善や自分らしい生活の構築などを通して生活の質を高める、維持するためのリハビリテーションや活動を学ぶ。
	情報処理 Information Processing	必修	講義	30	(1)	コンピュータの使い方を身につける。
	統計学 Statistics	必修	講義	30	(1)	統計の考え方を身につける。
	実習ゼミⅤ Practical Training Seminar V	必修	演習	30	(1)	いろいろな疾患に関する言語療法の現状や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について理解する。
	コミュニケーション論 Theory of Communication	必修	講義	15	(1)	コミュニケーションの基本的考え方とその実践を理解する。
専門 基礎 分野	耳鼻咽喉科学 Otolaryngology	必修	講義	30	(1)	言語聴覚療法の理解における基本的な知識となる耳鼻咽喉科学を理解する。
	形成外科学 Plastic Surgery	必修	講義	15	(1)	口唇、口蓋列等の先天的奇形やその他の奇型、変性を伴なう身体疾患について形成外科の立場から概観する。
	臨床歯科医学・口腔外科学 Dentistry / Cranio-Maxillo-Facial Surgery	必修	講義	30	(1)	構音生成と密接に関連のある口腔内部の形態及び機能を中心に、外科的な観点からスピーチを捉え、理解する。
	呼吸発声発語系の構造・機能・病態 Structure / Function / Disease of Respiratory, Phonatory and Speech System	必修	講義	30	(1)	呼吸・発声・発語系器官についてその構造及び機能を学び、聴覚障害、音声障害、言語障害を理解し、言語聴覚士に必要な知識を得る。
	聴覚系の構造・機能・病態 Structure / Function / Disease of Auditory System	必修	講義	30	(1)	聴覚系の末梢から中枢にいたる構造や神経機能、病態などを理解する。
	神経系の構造・機能・病態 Structure / Function / Disease of Nerve System	必修	講義	30	(1)	脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍を中心に主な脳神経外科疾患の病態、診断、治療に関して理解する。
臨床神経学 Clinical Neurology	必修	講義	30	(1)	臨床医学として、神経系の機能的解剖学を基本に各種疾患と障害の診断、治療などの基礎知識を身につける。	

2025年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	講義概要
専門基礎分野	言語聴覚障害診断学Ⅱ Pathology of Speech, Language and Hearing Impairment Ⅱ	必修	講義	30	(1)	言語聴覚障害領域における多様な臨床像に対応した評価・診断を行うことができる知識と技術を身につける。
	言語療法技術Ⅴ Speech Therapy Technic Ⅴ	必修	演習	60	(2)	言語療法分野での最新情報や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について理解する。
	実習ゼミⅢ Practical Training Seminar Ⅲ	必修	講義	30	(1)	いろいろな疾患に関する言語療法の現状や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	実習ゼミⅣ Practical Training Seminar Ⅳ	必修	講義	30	(1)	いろいろな疾患に関する言語療法の現状や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	実習ゼミⅥ Practical Training Seminar Ⅵ	必修	講義	60	(2)	いろいろな疾患に関する言語療法の現状や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	言語療法技術Ⅱ Speech Therapy Technic Ⅱ	必修	講義	30	(1)	言語療法分野での最新情報や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	臨床医学Ⅱ Clinical Medicine Ⅱ	必修	講義	60	(2)	言語聴覚障害に関連する領域の疾患について病態と医学的治療法を国家試験と関連づけて理解する。
	言語療法技術Ⅲ Speech Therapy Technic Ⅲ	必修	講義	30	(1)	言語療法分野での最新情報や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	臨床心理学 Clinical Psychology	必修	講義	60	(2)	言語聴覚療法において重要視しなければならない臨床心理学の基礎知識を中心にカウンセリング技法を身につける。
	生涯発達心理学 Life-span Developmental Psychology	必修	講義	60	(2)	認知・情緒・自我の発達、社会化等について理解する。
	学習・認知心理学 Learning / Cognitive Psychology	必修	講義	45	(2)	知覚、記憶、思考、学習等人間の知的側面についての心理学効果を学び、認知機能の形成過程等を理解する。
	心理測定法 Psychological Measurement	必修	講義	30	(1)	人間の心理的側面を科学的な方法を用いて測定するための理論と測定法を理解する。
	実習ゼミⅡ Practical Training Seminar Ⅱ	必修	講義	30	(1)	いろいろな疾患に関する言語療法の現状や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について理解する。
	言語学 Linguistics	必修	講義	60	(2)	言語学的立場を認識しながら、言語に関する様々な角度からの理論について理解する。

人体のしくみ・疾病と治療

専門基礎分野

心の働き

ニ
ケ
ー
と
シ
ョ
ミ
ユ

2025年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	講義概要
専門基礎分野	言語発達学 Language Development	必修	講義	30	(1)	子どもの前言語期から児童期までの各発達段階の言語能力、抽象概念、論理性などの知能、思考の発達を理解する。
	音声学Ⅰ Phonetics I	必修	講義	30	(1)	音声言語を扱う上で必要となる音声学の基礎的な知識を得る。
	音声学Ⅱ Phonetics II	必修	講義	30	(1)	音声学の基礎的な知識を土台にし、臨床の場で必要とされる技術や能力を身につける。
	音響学 Acoustics	必修	講義	60	(2)	音の物理的特性、音声の生成、知覚機構、音声の合成、分析について理解する。
	関連職種連携 Interdisciplinary Professional Practice	必修	演習	30	(1)	他の専門職と連携して症例へのアプローチの方法を理解する。
	海外セミナー Overseas Study Trip	必修	講義	15	(1)	海外の言語療法の現状を学び、説明できるようになる。
	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	必修	演習	30	(1)	医学的リハビリテーションの理念や概念を理解し、理学療法・作業療法を含む各疾患のリハビリテーションの知識を得る。
	社会保障制度 Social Security System	必修	講義	30	(1)	現代社会の社会福祉の分野別サービス、援助活動、医療との関連、その重要性について理解する。
	言語療法技術Ⅰ Speech Therapy Technic I	必修	講義	30	(1)	言語療法分野での最新情報や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連つけて理解する。
	専門分野	地域言語聴覚療法学 Community Speech-Language-Hearing Therapy	必修	講義	30	(2)
言語聴覚障害概論 Introduction to Speech, Language and Hearing Impairment		必修	講義	60	(2)	言語聴覚障害の分類と各障害の特徴・診断の基本を理解し、その臨床方法の基礎を学ぶ。また、言語聴覚士法を理解し、言語聴覚士の役割、倫理について考察する。
言語聴覚障害診断学Ⅰ Pathology of Speech, Language and Hearing Impairment I		必修	講義	30	(1)	言語聴覚障害評価の為の基礎的な能力を養う。検査の目的や方法について学び、評価・診断の為に必要な情報収集や治療スタッフの連携の重要性を理解する。
失語症Ⅰ Aphasiology I		必修	講義	30	(1)	失語症について医学的、リハビリテーション的観点からその基礎となる領域について理解する。
失語症Ⅱ Aphasiology II		必修	講義	60	(2)	失語症について医学的、リハビリテーション的観点から専門用語を理解する。

2025年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	講義概要	
専門分野	失語・高次脳機能障害学	失語症Ⅲ Aphasiology Ⅲ	必修	講義	30	(1)	失語症について専門用語を理解した上で臨床場面での評価、訓練法について知識を得る。
		臨床検査演習 Clinical Examination Seminar	必修	演習	30	(1)	学んだ検査法を確認し、言語聴覚士として必要な知識・技能、患者対応のあり方について説明できるようになる。
		高次脳機能障害 Higher Brain Dysfunction	必修	講義	30	(1)	高次脳機能障害に関する知識を習得し、検査、評価法を学び、リハビリテーションについて理解する。
	言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ Developmental Disorder of Speech and Language I	必修	講義	30	(1)	言語発達をもたらす発達の要因について基礎的知識の理解を深め、各々言語発達障害の特性や検査、評価、指導・訓練のあり方、養育者支援等の言語環境の整備について理解する。
		言語発達障害Ⅱ Developmental Disorder of Speech and Language II	必修	講義	60	(2)	言語発達をもたらす発達の要因について基礎的知識の理解を深め、各々言語発達障害の特性や検査、評価、指導・訓練のあり方、養育者支援等の言語環境の整備について理解する。
		言語発達障害Ⅲ Developmental Disorder of Speech and Language III	必修	講義	30	(1)	各障害の基礎知識や特性、検査、評価、指導・訓練方法について理解する。
		言語発達障害Ⅳ Developmental Disorder of Speech and Language IV	必修	演習	60	(2)	言語発達障害ⅠからⅢで学んだことを基に、実際に検査、評価、指導・訓練を行えるようになる。
		言語療法技術Ⅳ Speech Therapy Technic IV	必修	講義	60	(2)	言語療法分野での最新情報や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	発声発語・摂食嚥下障害学	構音障害Ⅰ Dysarthria I	必修	講義	60	(2)	構音障害の種類とその内容、検査法、及び治療の理念とその方法を理解する。
		構音障害Ⅱ Dysarthria II	必修	講義	60	(2)	構音障害の種類とその内容、検査法、及び治療の理念とその方法を理解する。
		摂食嚥下障害Ⅰ Dysphagia I	必修	講義	30	(1)	摂食・嚥下障害の基礎知識について理解し、それに対する評価法と訓練法を学び、言語聴覚士の役割と課題について考える。
		摂食嚥下障害Ⅱ Dysphagia II	必修	講義	30	(1)	摂食・嚥下障害についての専門知識を学び、評価法、訓練法を理解し、チームアプローチについての言語聴覚士の役割を理解する。
		音声障害 Dysphonia	必修	講義	30	(1)	音声障害の種類と内容、検査法、及び治療・訓練の理念とその方法を理解する。
		吃音 Stuttering	必修	講義	30	(1)	吃音について理解し、それに対する評価法と治療・訓練の方法を理解する。

2025年度 教科課程

言語聴覚士科

区分	開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	講義概要	
専 門 分 野	発 声 発 語 ・ 摂 食 嚥 下 障 害 学	言語療法特論 Special Lectures for Speech Therapy	必修	講義	60	(2)	最新の言語療法について知識や技術を国家試験と関連づけて理解する。
		言語療法技術Ⅵ Speech Therapy Technic Ⅵ	必修	講義	30	(1)	言語療法分野での最新情報や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	聴 覚 障 害 学	聴覚障害学Ⅰ Hearing Impairment Ⅰ	必修	講義	15	(1)	聴覚系、聴覚障害の基本的な知識、聴力検査の理論と種類を理解する。
		聴覚障害学Ⅱ Hearing Impairment Ⅱ	必修	講義	30	(1)	聴覚系、聴覚障害の基本的な知識、聴力検査の理論と種類を理解する。
		成人聴覚障害 Hearing Impairment in Adults	必修	講義	15	(1)	聴覚系、聴覚障害等の基本的な知識、聴力検査の理論と種類などを理解し、聴覚障害者に対するリハビリテーションについて理解する。
		聴力検査 Hearing Examination	必修	演習	30	(1)	各種の聴覚機能検査法とその診断学的意義について体系的に理解し習得する。
		補聴器・人工内耳 Hearing Aid / Cochlear Implant	必修	講義	30	(1)	聴覚障害児・者に対し、最良と考えられる補聴器・人工内耳の適合、評価、装用指導する為の聴能学、補聴学に基づく理論、技術を身につける。
		小児聴覚障害 Hearing Impairment in Children	必修	講義	30	(1)	聴覚障害の分類、原因と発達段階に沿った聴力検査の方法、補聴器の装用と聴能訓練を学び、療育と就学問題、家族の援助方法について考察する。
		聴覚障害演習 Hearing Impairment Seminar	必修	演習	30	(1)	各種の聴覚機能検査法・訓練法について、実習を通して学んだ知識の理解を深め、実技に習熟する。
		臨床医学Ⅰ Clinical Medicine Ⅰ	必修	講義	60	(2)	言語聴覚障害に関連する領域の疾患について病態と医学的治療法を国家試験と関連づけて理解する。
		実習ゼミⅠ Practical Training Seminar Ⅰ	必修	講義	60	(2)	いろいろな疾患に関する言語療法の現状や取り組み等、臨床で役立つ知識・技術について国家試験と関連づけて理解する。
	療法管理 学	言語聴覚療法管理学 Management of Speech-Language-Hearing Therapy	必修	講義	30	(2)	保健、医療、福祉に関する制度を理解し、組織運営の管理を学習する。
	臨 床 実 習	見学実習 Observation Practicum	必修	実習	120	(3)	リハビリテーションや療育の中で果たす言語聴覚士の役割を理解し、臨床現場における姿勢・観察の方法を学習する。
		評価実習 Assessment Practicum	必修	実習	320	(8)	対象者・児と円滑なコミュニケーションを図り、適切な評価を行い、評価に基づいた訓練プログラムの立案を行う。

2025年度 教科課程

言語聴覚士科

区分		開講科目名 (英語表記)	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位 数)	講義概要
専門 分野	臨床 実習	総合臨床実習 Comprehensive Clinical Practicums	必修	実習	320	(8)	対象者・児に適切な評価・訓練を実施し再評価を行う。
		臨床実習前後の評価 Pre-post Assessment of Practicum	必修	実習	40	(1)	実習に向けて習得した接遇、知識、技術が実習後にどのように変化したかを実習前後で評価する。